

## 発展する大規模疫学共同研究

国際協同研究・大規模コホート研究・生活習慣に対する介入研究

福祉保健医学講座

血圧に影響を与える栄養因子の国際共同研究、「INTERMAP」は、Intersaltの2世代目の研究であり、文部省の基盤研究Aとして我が国の4研究機関をまとめ実施している。米国8箇所、英国2箇所、中国3箇所のフィールド調査総計5000人余を含み、高度に標準化された方法で2日間の24時間蓄尿と4日間の栄養調査、血圧測定、等を実施した。5年にわたるデータの収集を終えて2000年から公表される。この研究により、血圧を低下させる未知の栄養因子が疫学的に世界ではじめて明らかになると期待される。

厚生省の長寿科学研究の班長として、「元気で長生きする要因」を明らかにすべく、厚生省の1980年と1990年の循環器疾患基礎調査の追跡調査を実施した。それぞれ、1万人、8000人の日本を代表するコホート研究、NIPPON DATA80・90となった。1999年と2000年にはそれぞれ、19年と10年目の追跡となる。65歳以上には日常生活動作能力や生活の質の調査を実施し、それから見た予後も明らかになる。この研究成果は、厚生省の21世紀の健康政策目標設定である「健康日本21」の基礎資料として多大の貢献をした。

文部省基盤研究A  
米国NIH研究  
世界5000名の調査

栄養と血圧  
INTERMAP

国際協同研究

大規模  
コホート研究

NIPPON DATA80

NIPPON DATA90

長寿科学研究  
1万人と8000人  
の追跡調査  
ADL, QOL  
元気で長生きできる要因

高血圧  
高コレステロール血症  
喫煙  
耐糖能異常

生活習慣に対する  
介入研究

厚生省健康科学研究  
大規模多施設共同研究  
長期の介入効果

厚生省の長期慢性疾患総合研究事業「生活習慣病班」の総括班長として、また、健康科学総合研究事業の「ハイリスク者に対する介入研究班」の班長として研究に取り組んでいる。これらは、循環器疾患の危険因子、すなわち高血圧、高コレステロール血症、喫煙、耐糖能異常に生活習慣の改善によって介入する、我が国ではじめての無作為化比較対照試験であり、大規模な多施設共同研究として実施している。

疫学研究は多くの研究者を糾合し、大規模な研究を実施することが重要であるが、教室はそれらの研究実施の要としての役割を果たしている。



1. Ueshima H et al. Hypertension 21, 248, 1993.
2. Stamler J et al. Circulation 94, 1929, 1996.
3. Kita Y et al. Int J Epidemiol 28, 1059, 1999.
4. INTERSALT Research Group. BMJ 297, 319, 1988.
5. Sekikawa A et al. Int J Epidemiol 28, 1044, 1999.